



春日井ロータリークラブ

2021-22 WEEKLY REPORT

クラブテーマ

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

「ロータリアンとしての誇りを持ち、出でて奉仕を！」



会 長：成瀬 浩康 事務局：春日井市鳥居松町 5-45
 副 会 長：中川 健 TEL：0568-81-8498
 副 会 長：小川 茂徳 FAX：0568-82-0265
 幹 事：大原 泰昭 E-mail：ksgi-rc@gaea.ocn.ne.jp
 会報委員長：下田 育雄 HP：https://www.kasugai-rc.jp
 例会場：ホテルプラザ勝川



2021年9月10日(金)2487回(9月第2例会)

本日のプログラム

- | | |
|--------------------|-----------------|
| | 司会 会場委員会 |
| ・点鐘 | 会長 成瀬 浩康君 |
| ・ROTARY SONG | 「われら日本のロータリアン」 |
| ・今月の歌 | 「少年時代」 |
| ・ビジター紹介 | 会長 成瀬 浩康君 |
| ・食事・歓談 | |
| ・委員会報告 | |
| ・会長挨拶 | 会長 成瀬 浩康君 |
| ・クラブフォーラム(職業奉仕委員会) | |
| ・幹事報告 | 幹事 大原 泰昭君 |
| ・点鐘 | 会長 成瀬 浩康君 |
| 今月の歌 | |

「少年時代」

夏が過ぎ 風あざみ
 誰のあこがれに さまよう
 青空に 残された
 私の心は 夏模様
 夢が覚め 夜の中
 永い冬が 窓を閉じて
 呼びかけたままで
 夢はつまり 思い出のあとさき
 夏まつり 宵かがり
 胸の高なりに 合わせて
 八月は 夢花火
 私の心は 夏模様

先週の記録

会長挨拶 会長 成瀬 浩康君
 ついにまた、先週から緊急事態宣言が発出されてしまいました。

今年の春先には夏から秋にはワクチンが行き渡ってコロナも収束に向かうのではないかと考えていました。

今年度はコロナに邪魔をされずに例会もできると思っていたのですが、年度が始まって2か月で早くもZOOM例会という事になってしまいました。

非常に残念ですが、この時のために機材なども準備し、速やかに対応できるようにしてきました。

また、例会は会場で、という会員の方のためにホテルプラザ勝川には部屋を確保しております。

会場の設営をしていただいているIT委員会の方々には本当に感謝しております。

話は変わって緊急事態宣言が発出される前日に、川瀬ロータリー情報・研修委員長主催の研修会が行われました。

まずは春日井RCの特徴や奉仕活動の歴史を学び、ロータリー財団、親睦と奉仕についての講義のあとディスカッションと実に充実した90分でありました。私も初めて知ったことがいくつかございました。

RI・地区・分区分は時代の変化と共にどんどん変わってきています。絶えず情報をアップデートしていかないといけないです。研修会を今年度は2回、3回と何回か行う予定です。新入会員の方だけでなくベテランの会員でも勉強になることはたくさんあると思います。是非参加されてはいかがでしょうか。

今回は研修会だけで懇親会が行えませんでした。食事やお酒を飲みながらロータリーを語れる日が早く戻ってくることを心より願っています。

さて、私的にはガバナー補佐訪問、ガバナー公式訪問が終わりホッと一息という感じです。前半戦の山は越しましたが、秋に予定していたWFF、春日井まつり、ミスケローナの来訪、福祉のつどいは軒並み中止になり、例会の予定がポツカリと空いてしまいました。

基本的教育と識字向上/ロータリーの友月間

	9月17日(金)	9月24日(金)	10月1日(金)	10月8日(金)
例会予定	例会 12:30~13:30		第4回理事会 11:15~	例会 12:30~13:30
	・祝福	休会	卓話 顧 彬楠様	卓話 未定
	・卓話 若草学園 園長 加藤 圭一様			

した。このあたりをプログラム委員会と相談しながら例会を企画していこうと思っています。

また、地区大会もどうなることやら。おそらく昨年度と同じようなハイブリッドでの地区大会になるのではと思います。

何とかしてクリスマス家族会や2500回例会だけは何としても通常の形で行いたいのですが今の段階では何とも言えません。

暗い話題ばかりですが、明るい話題もあります。

今日は青少年交換留学生に合格した谷口怜美さんがお母様とご一緒にご挨拶に来られました。

以前にもお話ししましたが、怜美さんの「留学したい」という強い信念が我々の春日井RCを探し当て、地区の面接試験にこぎつけ、合格されました。

正に「志あるものは事ついに成る」と言ったところではないでしょうか。

私たちも怜美さんを見習わなければなりません。コロナ禍だと言ってあきらめてしまっている事はないでしょうか。

ロータリーの奉仕活動もそうです。高い志をもって活動しなければいけません。

春日井RCは怜美さんの行動力を見習って、コロナ禍でもやれる活動、コロナ禍だからこそ、なくては行けない奉仕活動をどんどん計画し実行していくつもりです。

まだ17歳の怜美さんに負けてられません！！

幹事報告 幹事 大原 泰昭君

・第1回新会員研修会を8月26日（木）に開催しました。

研修内容は個別アカウントにてYouTubeで配信しております。

・松本俊哉君の入会に対し8/27までに異議申し立てがありませんでした。

よって正式に入会が認められましたので、入会式の準備を進めます。

・8月31日のガバナー公式訪問にzoom参加いただきありがとうございました。

音声の不具合、ガバナー卓話のパワーポイントの画像が配信されず申し訳ありませんでした。卓話内容のパワーポイントはメールにて送信しましたのでご確認願います。

・同日ガバナー公式訪問の後に春日丘IAC 3RC協議会が開催されました。

この会議の議事録は9月10日の理事会にて報告します。

・次回例会は9月10日（金）12時30分から、第3回の理事会を11時15分より開催します。どちらもハイブリッドでの開催となりますので、出席方法の意思表示をお願いします。

出席報告 委員長 廣瀬 清司君

会員 52名	出席 36名	出席率 69.0%
先々週の修正出席	出席 52名	出席率 100.0%

ニコボックス報告 委員長 野間 峰彦君

○谷口さんおめでとうございませぬ。成瀬 浩康君

希望がかなって良かったですね。

○会場で集まれるまで我慢我慢。大原 泰昭君

○新会員研修会に出席していただき、川瀬 治通君
ありがとうございました。

○ハイブリットでの例会・ご準備頂く 青山 博徳君
スタッフに大感謝です。

○コロナ禍の中、初孫が無事誕生しま 大西 信之君
した！

○例会運営ご苦労様です。予想したよ 古屋 義夫君
りコロナ禍が長く続きますね。治療
法がいち早く確立する事を祈念した
いと思います。

○本日の卓話宜しくお願い致します。 村瀬 昌史君

○村瀬さんの卓話を聞く喜びで。 和田 了司君

○本日の村瀬君の卓話を楽しみにしております。

岩村 幸正君 風岡 明憲君 加藤 宗生君

近藤 太門君 中澤 一君 長谷川智幸君

廣瀬 清司君 三上 努君

○ご協力ありがとうございます。

ニコボックス委員会

村瀬 昌史君

卓話

皆様こんにちは。

東海東京証券の村瀬です。

本日は、貴重なお時間をいただき、卓話をさせていただくことになりました。

春日井ロータリーに入会させていただいてから、今回で3回目の卓話になります。

1回目は、自己紹介。2回目は、弊社のSDGsの取り組みについて。そして、今回は、「アフターコロナにおける日本の株式市場の見通し」というテーマで卓話をさせていただきます。よろしく願いいたします。

年後半の日本株市場の見通しと投資テーマについてご説明させていただきます。

次お願いします。

2021年後半の日本株市場の見通しにつきましては、年前半に日経平均は一時3万円を突破する局面もありましたが、その後はワクチン普及の遅れなどから下落基調を余儀なくされました。変異株について警戒されますが、ワクチン接種は着実に進展しており、秋口から上昇傾向が再開されるのではないかと考えています。

まず、2021年前半の日本株市場を振り返ります。日本の代表的な株価指数である日経平均は、グローバルでの新型コロナワクチン接種の進展や米国の経済対策などを追い風に、一時30,000円の大台を越える場面がありました。しかしその後は、国内でワクチン接種の普及が遅れる中で、デルタ変異株のまん延への警戒が強まり、水準を切り下げる展開となりました。米国のインフレ、物価上昇への警戒、金融政策変更の観測が浮上したことも下げ要因となることがありました。ワクチン行政への不信感などから内閣支持率が低下し、秋までに実施される衆院選で自民党が苦戦するのではないかとこの不透明感が高ま

っていることは、日本株独自の悪材料となっているとみられます。今年前半の日経平均は概ね 27000 円から 30000 円程度の範囲内でもみ合いの推移となっています。

一方で、米国やヨーロッパなどの主要国では、ワクチン接種の普及が進展したことによる経済正常化への期待を原動力に、株価が概ね堅調な推移を続けています。米国では主要な株価指数が過去最高値を更新するなど、堅調な推移となってきましたが、右上のグラフにありますように日本株は欧米株に対して大幅に出遅れる展開となっています。

では、欧米と比較して企業業績見通しはどのように変わっているのでしょうか。それを見たものが右下のグラフです。こちらは、新型コロナ感染拡大前後の日本と米国、ドイツの一株当たり利益を示しています。概ね同じような傾向で推移していますが、日本企業の業績改善見通しが欧米と比較して鈍いことが分かります。特に、網掛けの部分を見ますと、欧米で回復のペースが加速しているのに対して、日本は遅れた格好となりました。欧米ではコロナショック前の水準を大きく上回っていますが、日本では、ようやくコロナ前の水準に到達する見通しです。この時期は、欧米に対して日本のワクチン接種の普及が遅れた時期と概ね一致します。ワクチン接種の進展度合いが企業業績にも影響を与えているということが言えそうです。

もっとも、日本のワクチン普及の遅れは今後、解消に向かうことが見込まれます。実際、日本のワクチン普及の速度は足元で海外に対して早くなってきていることが、左下のグラフでもお分かりいただけると思います。これは大規模接種センターの稼働や学校や職場などでの接種がはじまったことが貢献しています。ワクチンの供給不足といった不手際もありましたが、政府は 10-11 月の早い時期に希望する全ての対象者にワクチン接種を完了する計画としております。

普及に伴って日本企業の業績改善期待を高め、日本株は欧米株に対する出遅れを取り戻すような展開になることが期待されます。

日本株の季節性にも注目したいと思います。右上のグラフは TOPIX という東証 1 部市場全体の株価動向を示した指数の 2000 年以降の月別平均騰落率を示しています。夏場に低迷して年末に向けて株価が上昇する傾向があることが確認できます。年末商戦への期待などが背景にあるとみられますが、今年は秋に衆院選があります。内閣支持率の低迷が警戒されている一方で、政府が衆院選を前に追加の経済対策を打ち出せば、株式市場ではこれを評価する展開が期待されます。

また、10 月中旬頃からは 3 月本決算企業の中間期決算発表シーズンが本格化する時期となります。今年度の会社側の期初の業績計画は、新型コロナ感染拡大の不透明感や、半導体不足を原因とする生産の停滞懸念などから例年以上に保守的に設定されてい

る可能性が高いと考えられます。そうした不透明材料がある中でも、世界経済は回復基調を継続しており、会社の計画以上に業績改善が進展している可能性があります。中間期決算発表シーズンで会社計画の上方修正が相次ぐようであれば、株価を押し上げる要因になると想定されます。

もう一つの背景として、需給面からの後押しも期待されます。右下のグラフは海外投資家の売買動向を示したものです。新年度入りする 4 月のほか、10、11、12 月と年末に向けて買い越しする傾向が確認できます。日本株の日々の売買で海外投資家は過半を占めておりますが、需給面の後押しも年後半に向けての期待材料と言えそうです。

こうしたことから、足元は厳しい相場環境が続いておりますが、秋以降はワクチン接種や政治を巡る不透明感の払しょく、業績改善期待などを通じてマーケット環境は好転するものと予想しています。

以上が日本株全体をみたストラテジーになります。それでは、今年後半に注目の日本株のテーマとして 3 つ挙げたいと思います。1 つ目は半導体市場の拡大、2 つ目は経済活動の再開、3 つ目は脱炭素社会への歩みです。

半導体とはコンピュータを動かしたり、データを記録したりするのに欠かせない電子部品です。スマートフォンやパソコン、家電などに多く使われており、これらの需要回復・拡大により半導体市場が拡大しています。自動車向けにも多く使われておりますが、電気自動車ではさらに多くの半導体が必要とされております。

左下の図をご覧ください。

世界半導体市場統計という業界団体では、2021 年、22 年の半導体市場の成長見通しを 7 月に上方修正し、それぞれ +19.7%、+8.8% と予測しています。

世界では米国のインテルや韓国のサムスン電子、台湾の TSMC（台湾セミコンダクター）といった企業が主要な半導体メーカーであり、これらの企業が積極的な設備投資を計画しております。日本では半導体を作る機械である半導体製造装置、半導体の材料などで高いシェアを誇る企業が多くあり、半導体市場の拡大が続く中で、活躍が期待されます。最近の世界の半導体製造装置の売上高を見ましても、半導体売上高と同様に前年までの水準を大きく上回っていることがわかります。

右下のグラフは、日本を代表する半導体製造装置メーカー、東京エレクトロンのシェアを示しています。円グラフの青の部分が東京エレクトロンのシェアですが、一部の製造装置では 9 割近いシェアがあります。半導体は、多くの工程を経て作られ、それぞれの工程で製造装置が必要となります。半導体市場の成長が見込まれる中で、高いシェアを有する企業には追い風の状況が続くと見ています。

続いて経済活動の再開、いわゆるリオープンングについて取り上げます。新型コロナ感染症が広がる中で、緊急事態宣言がたびたび発出され、陸運業や空

運業などの交通関連、宿泊、飲食、インバウンド関連、レジャー、イベントなどの業種に大きな打撃を与えることとなりました。左下の図には航空業界の代表としてANAホールディングスの月次の旅客情報、右上の図には飲食店やホテルなど宿泊業の売上高の状況、を示しております。いずれも2020年にコロナ禍で大きく落ち込み、2021年に入ってもいまだ回復には、ほど遠い状況である様子がわかります。

わが国におきましては、ワクチン接種の遅れなどもあり、海外に比べて経済の立ち直りが遅れている状況にありましたが、さきほどお話ししましたように足元でワクチン接種が進んでいます。右下の図では、リオープニング銘柄は株価がコロナ前の水準を下回っている銘柄も多く、経済活動再開への期待が高まれば、株価は巻き返しの動きが期待されます。

3つ目の投資テーマは、脱炭素社会への歩みについてです。左下の図で、菅首相は2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとする目標を掲げました。右上の図で、政府が打ち出しているグリーン成長戦略におきましては、水素や蓄電池、洋上風力などの分野でそれぞれ目標を掲げ、規制改革や投資減税などで積極的に普及を後押しする姿勢を見せています。例えば水素は、脱炭素社会の新たな資源として位置付けており、水素をエネルギーとして使う燃料電池の開発やガソリンスタンドのかわりとなる水素ステーションなどの整備が課題となります。自動車でも各国の自動車の環境規制などとあわせて電動化を推進する計画にあります。また洋上風力発電では2040年までに大型火力発電30基分に相当する発電量を目指すとしており、半導体によるデジタル化の推進もグリーン戦略の重要な位置づけに置いております。

4月に開催された気候変動サミットで各国が目標を打ち出したように、取り組みは世界で加速しております。また右下のグラフにありますように、日本では自動車業界がハイブリッド車や電気自動車の普及目標を掲げており、鉄鋼業界などでも脱炭素を重点分野としております。

脱炭素は様々な業界を巻きこんだ世界的な潮流となっており、年後半もニュースなどで頻繁に見聞きすることが多くなりそうです。

最後に、資料にはありませんが、脱炭素関連企業の中で、今期最高益を更新しそうな企業を2つご紹介させていただきます。

1つ目は、日本電産です。

日本電産は、世界トップの総合モータ企業です。

パソコンのハードディスク駆動装置向け精密モータから、車載や家電用にシフトを図っています。近年、電気自動車(EV)向け駆動用モータに注力し、中国自動車メーカーを中心に採用車種が急拡大しています。21年6月の株主総会でCEO(最高経営責任者)を創業者の永守会長から関社長に交代しました。同社は7月21日に21年4-6月期の決算を発表しました。営業利益は前年比60%増の445億円となりました。「WPR4」プロジェクトによる原価改善などの施策や欧米で

の搬送用ロボット向けモータ、ITファンモータや家電用モータなどの新製品が堅調に推移したことなどが寄与しました。会社は期初の22/3期営業利益計画1,800億円を据え置きましたが、弊社では1,950億円と上ブレ、23/3期は2,400億円と予想しています。

会社は中期戦略目標「Vision2025」を発表し、従業員1人当たり売上高・営業利益の倍増などを掲げ、2023年3月に売上高2兆円、2026年3月期に同4兆円を目指す方針を示しました。会社計画上ブレが期待されることに加え、電気自動車関連事業の中期的な成長も見込まれています。

2つ目は、JFE HDです。

JFE HDは、鉄鋼・エンジニアリング・商社の3つの事業を中心とした企業グループです。

8月12日発表の2022年3月期第1四半期税引前利益は854億円と黒字転換いたしました。通期予想税引前利益を1,900億円から3,400億円へ、発表時のQUICKコンセンサス予想の2,296億円を大幅に上回る水準に上方修正いたしました。併せて、未定としていた中間配当を60円とすることを発表しました。日経予想では下期も60円を予想しており、予想配当利回りは6.94%となります。鉄鋼事業においては、国内については、国内外の経済の持ち直しを背景として、鋼材需要の回復傾向が継続すると想定され、とりわけ外需にけん引される形で製造業向けが堅調に推移しています。海外については、インド、アセアンを中心とする新興国はコロナリスクを内包する状況が継続する見込みであるものの、堅調な中国内需がけん引し、鋼材需要は回復傾向が継続する見通しです。また、商社事業においては、上期での国内外の需要回復及び市況上昇による売上収益の拡大、国内薄板グループ会社や米州を中心とした海外グループ会社での増益等により、前回予想を上回る見通しとなっています。

以上、脱炭素関連企業として個人的に注目している企業を2つご紹介させていただきました。

株式投資のご経験のある方、ご経験のない方いらっしゃるかと思いますが、株式投資は、さまざまなリスクを正しく認識したうえで、ご自身の判断と責任に基づいて行なわなければなりませんので、くれぐれもよろしくお願いたします。

以上、「アフターコロナにおける日本の株式市場の見通し」というテーマで卓話をさせていただきました。

現在、日本においては、アフターコロナどころではなく、企業活動や、プライベートの行動についても、様々な行動制限がなされており、ストレスの多い毎日が続いておりますが、早期のコロナを気にしない日々が訪れる日を願うばかりであります。

ご清聴ありがとうございました。

アフターコロナにおける日本の株式市場見通し

東海東京証券 春日井支店
村瀬

年後半の日本株市場の見通しと投資テーマ

日本株投資ストラテジー

- 2021年後半の日本株市場の見通し
年前半は日経平均一時3万円突破も、その後はワクチン普及の遅れなどから下落基調を余儀なくされた
→変異株は警戒されるが、ワクチン接種は着実に進展
→秋口から上昇再開か

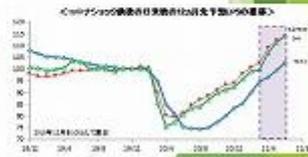
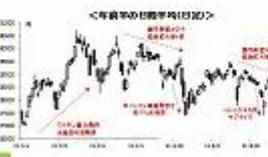
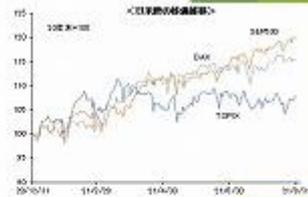
日本株投資ストラテジー

日本株市場の現状

2021年前半の日経平均は世界的なワクチン接種普及への期待から一時3万円に到達。その後、国内でのワクチン接種普及の遅れ、新型コロナウイルスの感染再拡大などから下落する展開。

ワクチン接種が先行した米露株、欧米株に対して、日本株は遅れが顕著となっている。

株値の上昇は利益回復見込しの遅れという面でも説明可能。ワクチン接種の進展で業績回復期待が高まれば、株値の上昇も期待される。



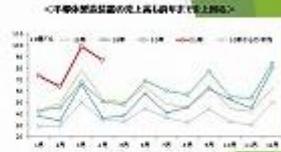
年後半の日本株投資テーマ

- 半導体市場の拡大
- 経済活動の再開
- 脱炭素社会への歩み

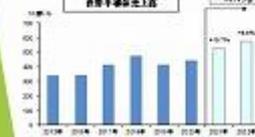
投資テーマ:半導体市場の拡大

活況が続く半導体市場

- 5Gスマートフォン普及やデータセンター投資拡大、クラウド向けパソコン需要増加などを追い風に、半導体市場は絶好に展開する見込み。WSJは世界半導体市場統計では2021年、2022年の半導体市場の成長を予測。
- 半導体製造大手のTSMCやサムスン電子が積極投資の見込み。半導体製造装置の需要が拡大。半導体材料にも、製造装置の売上高も前年まで大きく上昇。
- 日本では半導体製造装置、材料などで高成長を享受する企業が多く、半導体市場の拡大は追い風となる。



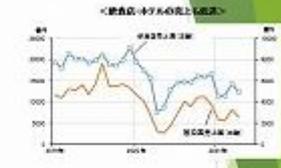
半導体市場は絶好に展開する見込み



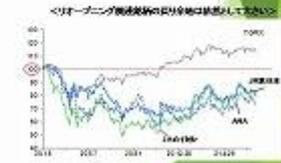
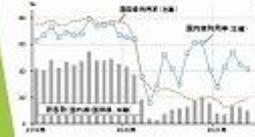
投資テーマ:経済活動の再開

リオープン(経済再開)銘柄の差違

- 新型コロナウイルスの感染拡大は、観光、交通、宿泊、飲食、イベントなど観光などの業種には大打撃を与えた。
- 飲食やホテルなどの業種では、2020年に売上高が大きく落ち込んだ。2021年7月10日現在と比較してそれほど戻っておらず、ダメージが続いている。
- コロナダメージを受けた業種の業績は戻りは続く。経済再開となる見込みが大きい。業種別の動向には注意が必要だが、コロナワクチンの普及が進むと後半は勢いを失いが期待される。



コロナ禍で大打撃を受けた業種



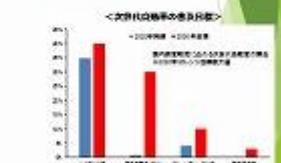
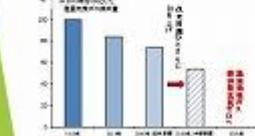
投資テーマ:脱炭素社会への歩み

世界の潮流となる脱炭素社会

- 菅首相は、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロを目指す目標を表明。グリーン成長戦略では、再生可能エネルギーや技術革新に対し、企業の取り組みを支援する構え。
- 4月に開催された気候変動サミットでは、各国が2030年に向けた削減目標を打ち出すなど、取り組みは実務で加速。
- 自動車業界では、EVなど環境対応車への取り組みが一層加速。株主等の多くは環境分野においてESG投資への取り組みを重点分野として打ち出すなど、いまだ業界間のやり取りの進展が乏しい。



日本の温室効果ガス削減に向けた目標





会長挨拶 会長 成瀬 浩康君



幹事報告 幹事 大原 泰昭君



委員会報告 ニコボックス委員会 野間 峰彦君



ビジター紹介
2021-22 年度 青少年交換留学生 谷口 怜美様



米山奨学生 顧 彬楠様



谷川 怜美様を囲んで



卓話 村瀬 昌史君